

梅雨明け後、高温によるほ場の乾燥が進んでいます！

- 麦跡播種のほ場など、**生育量がまだ確保できていないほ場**では、**土壌が乾きやすく、乾燥害を受けやすい状況**となっています。
- 管内ではエンレイを中心に開花期となっており、大豆に水分が必要な時期を迎えています。
- うね間かん水**を適切に実施して、大豆への乾燥ストレスを軽減しましょう。

<実施事項>**狭畦栽培や培土を完了したほ場ではうね間かん水を実施**

※これからの開花期～子実肥大期(7月下旬～8月下旬)は最も水分を必要とする時期です

☆うね間かん水実施のポイント☆

- かん水は**短時間**で行い、ほ場全体に**水が行き渡ったら速やかに排水**しましょう
- うね間や**額縁排水溝と排水口の連結**を確認し、手直しを忘れず行いましょう
- 今後も3日以上晴天が続いたら、土の乾き具合に応じてうね間かん水を実施しましょう



葉が裏返って
からでは遅い！

☆干ばつによる大豆への影響☆

- 根粒の窒素固定活性や光合成、根の養分吸収力の低下が大きい
- 葉の裏返りや落花・落莢が発生し着莢数が減少する

⇒これらを回避する対策としてうね間かん水は非常に重要です！